

保育園自己評価表

2017年度

園名 まあむキッズ相模大野北口

| 保育目標の達成 | 職員間の連携 | 地域とのコミュニケーション |
|---|--|---|
| <p>子どもの様子をよく観察し、一人ひとりの様々な気持ちに寄り添い、必要に応じた援助と見守りができるよう努めた。自分でできたことを喜んだり、自分でやってみようという思いを持てるような関わり方を大切に、自主性や意欲の育ちにつなげた。</p> <p>それぞれの発達段階に配慮しながら、様々な成切体験ができる保育を心がけた。できたことだけでなく、それまでの過程を十分認め、自信や意欲につなげていけるような関りを大切に。日々の活動・行事において子どもたちの育ちを十分に感じる事ができた。</p> <p>成長の度合いに個人差が大きいクラスもあって、その対応に追われる場面もあった。それぞれに合った援助が十分におこなえたのが課題でもある。</p> <p>年齢の違つ子どもたちが刺激を受け合える環境を大切にしている。年下の子が年上の子の姿を真似することで活動の意欲につながり、また年上の子は年下の子と関わることで思いやりの心の育みにつながっている。引き続き限られた時間のなかで環境を整え、同年齢での活動と異年齢での活動をバランスよくできるよう工夫していく。</p> | <p>勤務時間の異なる職員間の連携に課題を持って過ごした。特に子供の様子や家庭と園とのやりとりなどの伝達事項を職員全体に周知できるように連絡ノートやホワイトボードなどで引き継ぎの手段を工夫しているが、未だ課題はある。職員の仕事や役割を明確化し、互いに声をかけあい連携を図り、安全管理や円滑な保育ができるようところがけていく。</p> <p>建物の構造上、2階と3階に分かれた保育をおこなわざるをえず、この間の連携に多少の戸惑いや課題があったが、異年齢児を交流させることなどで園児の行き来を活発にしたりすることで少しずつうまく流れるようになった。</p> | <p>毎月2回の子育て広場事業により園開放をおこなってきた。毎回15組～20組の方に利用していただき、とても感謝もされ一定の役割を果たせたと思う。2018年度より大幅に子育て広場事業の助成金が削減され、今年度と同様の取り組みがおこなえないことが誠に悔しいかぎりではあるが、限られた予算のなかで地域に貢献できる取り組みを続けていきたいと</p> <p>相模大野の近隣保育園を中心に、恒例となった「さみはら保育フェス」を10月7日に開催し、1600名ほどの方々に足を運んでいただいた。保育園の合同説明会も実施し、多くの方に関心を持っていただいた。</p> <p>年長児は、小学校の行事への参加を多く経験することで就学への意欲につながることができた。また、職業体験を目的に退園した小学生たちが園児と一緒に過ごしたり職員と話をすることで、保育の仕事への興味と学びにつながることができた。</p> <p>季節のイベント等にあわせて地域の高齢者の方々と楽しく交流する機会を設けることができた。お年寄りの方に温かい声をかけて頂き、親しみを持って自分の思いを伝えたり、一緒に制作活動を楽しんだりする子どもたちの様子が見られた。</p> |

この評価のつけ方:

施設長・主任による各職員への聞き取り